

回覧



# わがまち池上

池上管内世帯人口数  
(外国人住人を含む)  
(令和6年5月1日)

- ・世帯数 25,090
- ・人口(男) 22,429
- ・人口(女) 23,127
- ・人口(計) 45,556

発行：地域力推進池上地区委員会  
編集：地域情報紙  
「わがまち池上」編集委員会  
事務局：大田区池上特別出張所  
〒146-0082 大田区池上1-29-6  
電話 (3752) 3441(代)



発行日3・6・9月の25日、12月15日

私は昭和6年生まれの92歳です。昭和35年に埼玉県から29歳の時に嫁いできました。稲荷神社の前のこの店の始まりは、昭和の初めの頃、馬込の方から蒲田の市場に荷を牛車で運ぶ人達の休憩所として今の場所に開業して、百年になるうとしています。焼酎等の飲み物や餡菓子等を置き、椅子を置いて店の中で飲食をすることもできました。結婚する前の昭和34(1959)年秋に伊勢湾台風で大水が出て稲荷神社も水びたしになり、船が出て大変だったという話ですが、その後はありませんでした。



## 池上の昔を語る(34)

### 青木さと子さんに聞く(池上二丁目・駄菓子屋)

んど二人で家計の足しにと続けていました。主人は定年後に菊作りに力を入れていて、家を空けることはできないので一緒に旅行する事はなく、私は店を閉めて友達とあちこち旅行をしていました。

現在は退職した息子の助けを借りて、今も子供達を相手に元気に店に出ています。お店の広さは2坪で100点以上の品を置いています。以前仕入れは国道沿いの池上警察署の前にあった問屋へ自転車で行っていました。現在は千鳥郵便局の前辺りに移転していますが、息子が担ってくれています。価格は消費税込みの金額で商品毎に表示していて、細かいお菓子の金額の計算は、以前は五つ玉の算盤で計算していましたが、今は電卓です。最近の子供達は自分のスマホの電卓で計算しながら買っていますが、やはり私が確かめます。

少し前までは「フルーツ村」と言う200円の当りがあるスクラッチカード(22円)が売れていました。今時の子供達の人気商品は、人気アイドルのブロード、今はカードと言うようですが、中でも男性アイドルグループのカード(33円)が売れによって当たる金額が違



駄菓子屋さんが少なくなつたので、遠方から来ているお子様が多いです。お店は朝八時頃から夕方六時半位迄やっています。保育園帰りの親子が「閉まってしまおう」と子供さんに急かされて来ることもあります。今年初めてですが、近くの小学校の先生が挨拶に見えました。いつ迄続けられるか分かりませんが、元気なうちは続けていくつもりです。



サッカーくじの付いたラムネ(12円)、綿菓子(54円)等です。そして店の外にあるガチャガチャ(100円・200円)が人気です。

本館の一階では昔あそびや工作のコーナーがあり、けん玉をしたり風車を作ったりして楽しんでいました。

本館二階では、吹奏楽、バルーンアート、ダンス、チアリーダー、ギターのパフォーマンスがあり、最後にジュニアリーダーのレクリエーションで幕を閉じました。本館二階より西館二階への通路では、池上みやげ、クッキー、縫製品などの販売のコーナーがあり、西館の松の間では、

子どもガーデンパーティーが、4月28日(日)に池上会館にて開催されました。ガーデンパーティーは、コロナ、雨天などで、5年ぶりの開催となりましたが、ゴールデンウィークも始まり、初夏のような天候に恵まれ、沢山の方に参加をいただきました。

## 第73回 子どもガーデンパーティー 池上会場



ジュニアリーダークラブによるレクリエーションが体験できました。西館二階は食事のコーナーで、特に民生児童委員によるミンジーカレーは、人気があつたようです。

初めての池上会館での開催でしたが、天候にも恵まれ、たくさんの子供たちが来てくれて楽しい一日となりました。



# 久寿餅の 発祥地はどこ？

池上図書館が現在の東急池上線池上駅「エトモ」4階に移ってくる以前のリサイクル資料の、森比呂志「画・文」『大正時代物語 川崎あれこれ』（国書刊行会、昭和63年）をペラペラめくっていると、「大師門前町」のところに久寿餅の話が載っていました。

「大師の門前町が出来たのは新しく、明治二十年代のことである。…大師の名物は久寿餅だった。昔から久寿餅は池上本門寺の名物として知られていたが、大師に門前町が出来ると池上の住吉屋が移転してきた。そして、いつのまにか大師のほうに有名になってしまっている」と出てきます。

「大師の門前町が出来たのは新しく、しかし、池上の「池田屋」は元禄年間（1688～1704）の創業ですし、両「浅野屋」は宝暦三年（1752）、「藤乃屋」（旧・相模屋）も江戸時代です。ということは、当然、久寿餅（葛餅）の発祥は池上ということになるでしょう。



池上第二小 作品

## 愛されている町、池上 6年 吉原 悠乃

私が住む町、池上は住んでいる人に愛されているあたたかさを感じられる町だと思います。

池上は、穏やかで落ち着いた雰囲気です。池上駅付近には、商店街がたくさんあります。また、川崎・大森・蒲田に近いので、買い物で便利で、住みやすいです。

そして、池上は気分転換ができる場所が多く、私がいなと思える場所は池上本門寺です。池上本門寺は、普段は静かで緑も多く四季の移り変わりが分かります。そのうえ、祭りが開催されると人で賑わいます。

歴史が長く、昔からある建物ですが、キレイでしっかりとお手入れされています。

また、池上に住んでいる人は昔から住んでいるという人や親も池上周辺で生まれ育った人が多いです。

このような理由から、池上は住んでいる人に愛されている町です。だから、私は池上は将来も愛され続けてほしいです。なので、まず町の雰囲気を悪くしないように道端に落ちていたゴミを減らすなど私にもできることを池上のためにやっていきたいです。



五重塔と木々  
6年 中村 美緒



池上駅  
6年 高林 知惟太



五重塔  
6年 石川 桜

## 被災地の蒼穹

著名な書道家の筆によるものなので、編者が通うクリニックの待合室に「雲外蒼天」と大きく書かれたものが、額に収め掛けられています。当院長の座右の銘なのか来院してくる患者への励ましなのか、色々勝手に解釈して、診察を待つあいだ眺めておりました。

この熟語の由来は古代中国の李白や文人墨客からではないかと考えられ、企業や学校で入社入学式等の祝辞や訓示として多用されるのでご存知の方も多いかと思いますが、敢て注釈致しますと、『苦難の時期があっても努力し乗り越えれば、雲の上に青空があるように必ず明るい未来が開ける』と云った意味かと思われれます。

ところで医院と同様の四字熟語が、鉄道ファン垂涎の的の、ローカル線の鉄道名をそれぞれ個人的に描いた「鉄印カード」なるもの一枚である、今年元旦に起きた能登半島地震で一部区間が被害を受けた「のと鉄道」のカードに書かれています。

そのカードを復興支援の一助になればと、昨年九月の台風十三号で、同様に被害に遭った房総半島の中央部を横断して走る「いすみ鉄道」が「雲外蒼天」と書かれた「のと鉄道」のカードを率先して各駅で販売していました。その援助の甲斐あってか四月上旬全線開通し、被災地の多くの期待を寄せ、蒼穹へと走り始めました。



## 第九回 呑川こども 鯉のぼり祭

今年も霊山橋から妙見橋の間をたくさん鯉のぼりが泳ぎました。GW後半の5月2日（木）から6日（月）まで、池上小学校と池上第二小学校の二年生による手づくり鯉のぼりに、池上青少年対の布製鯉のぼりを加えた三〇〇匹あまりが展示されました。

年々子どもの作品が増えていくことから、主催の呑川の会では、布製鯉のぼりの展示数を減らし、作品の展示スペースを広げて、イベントの名称も今年から「呑川こども鯉のぼり祭」とすることに決めました。

たくさん鯉のぼりが川面にその姿を映しながら泳ぐ鮮やかな光景に、道ゆく人が足を止めるのはもちろんのこと、近年ではSNS等でも評判が広がり、遠方から訪れる方もあったようです。



## 俳壇

堤方西

宮内 稚春

フランクに  
菜の花咲きて 春立ちぬ  
昼さがり 鱈食して 街歩き  
豆拾う 映像に酒 うましかも  
中秋の月 輝きて 窓満る  
名月や 呑川の橋 光りけり



## 編集後記

今年も五重塔の御開帳が桜の開花時期に合わせ行われました。桜は散るまで其々愛され、並木道に花吹雪が舞うと花莫盛、川面に散ると花筏となり、最期の花見を楽しませてくれます。桜と聞けば数多くの桜の歌を詠んだ西行法師が思い浮かびます。代表作の一つに、

願わくは

花のしたにて

春死なむ

そのきさらぎの

望月の頃

お釈迦様が涅槃に入られた旧暦二月十五日の満月に自らも桜の下で…と願って詠んだ歌です。  
(小鳥遊)

